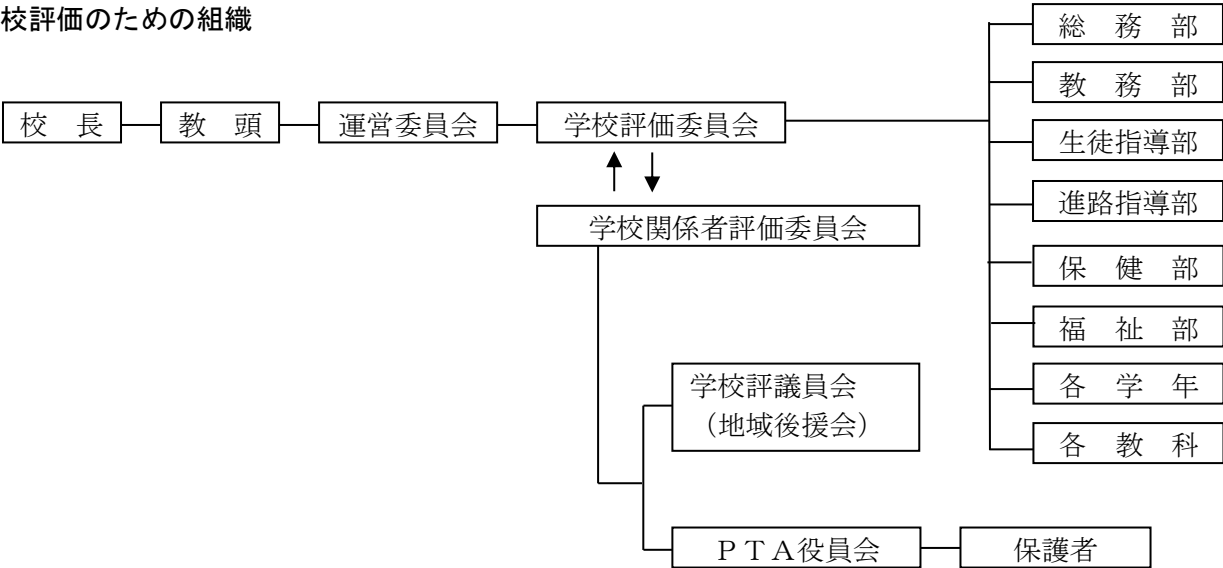


学校評価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

月	項 目	内 容
4	・学校運営方針の発表 ・重点目標の設定	・校長による学校運営方針の発表に基づく各分掌等の重点目標と具体的取組等の設定
5	・保護者への説明(P T A総会) ・ホームページへの評価結果の公表	・新年度の学校評価の重点目標の説明と公表 ・前年度の自己評価及び学校関係者評価結果の説明と公表
9	・第1次評価の実施	・1学期までの取組とその改善策の自己評価
10	・外部評価・中間評価の実施	・地域後援会役員会(学校評議員会)、学校関係者評価委員会による中間評価の実施と学校評価委員会への報告
12	・第2次評価の実施	・2学期までの取組とその改善策の自己評価
2	・年度末評価の実施	・年度末評価の実施と課題に関する自己評価
3	・学校関係者評価委員会の開催	・自己評価・内部評価及び外部評価の実施と評価結果のまとめ

(3) 本年度の学校評価

本年度の 重点目標	① 基本的生活習慣を身に付けさせるとともに、自他を尊重する精神と豊かな情操を養う。 ② 基礎学力の定着を図り、自己の進路実現のための力を身に付けさせる。 ③ 学校危機対応への取組と交通安全指導を推進する。 ④ 清掃を徹底し学習環境を整えるとともに、校内美化を推進する。 ⑤ 教員の働き方改革を推進する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
行事・儀式 防災・校史 地域連携 体験入学 学校評価 (総務部)	・式典・行事の実 施内容・日程等 の検討	・式典や行事の実施内容、日 程等を見直す。	・実施内容の改善・改良を図り、それぞれの式典・行 事の目的に合った形態での実施を目指す。
	・中学生体験入学 の見直し	・中学生や保護者にニーズに 合わせた体験入学を実施す る。	・体験入学のプログラムを見直したり、教員や在校 生との関わりを増やしたりして、本校の特色をよ り知ってもらう。
	・広報活動の推進	・広報誌やホームページ、公 式インスタグラムを有効に 活用する。	・ホームページや公式インスタグラムを外部だけでな く、在校生や保護者にも各種の情報を提供するツ ールとしての認知度を高めていく。
	・P T A活動の見 直し	・P T Aの負担軽減のため、 活動内容を見直す。	・これまでの活動内容を見直し、継続して実施でき る内容を検討する。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 現職研修 図書指導 (教務部)	・基礎学力の定着と社会の中で生きる力の習得	・基礎学力定着のため、UDを広める公開授業等の研修の実施 ・総合的な探究の時間の精選や反省のために委員会を月1回程度実施する。	・UDなどの取組を学校として実施し、能動的に生徒に基礎・基本を習熟させる。また、教育課程に関しても基礎基本の学びに適したカリキュラムを提案する。 ・「総合的な探究の時間」を中心にキャリア教育を核にした探究的活動を充実させ、社会の中で生きるための能力を育成する。
	・主体的対話的で深い学びの実践と評価方法の充実	・従来の授業からの脱却を図るべく、研修や授業公開で授業改善を促す。 ・評価方法などの情報を共有し、改善を図る。	・授業公開などを実施することで授業改善や協議の場を設け、教科会などの時間を用いて授業改善についての協議を促す。 ・教科会や研修を充実させて、研究の共有を促す。
	・図書館利用生徒数の増加	・朝の読書に読む本を図書館の本にするなど、広報活動やイベントを実施して来館を促す。	・広報活動(学級文庫設置を含む)を通じて、生徒の図書館利用の拡大を図る。 ・朝の読書の時間を通して読書習慣の定着を図る。
生徒指導 交通安全 (生徒指導部)	・基本的生活習慣の確立	・身だしなみ所作指導の徹底。欠席、遅刻者数の減少と、挨拶指導の充実を図る。	・全職員一致体制で教育活動全体を通して指導する。 ・地域、保護者、学年等との連携を図るとともに、教科指導や進路指導の場面においても、身だしなみ所作指導の徹底と挨拶指導を充実させる。
	・安全、安心が確保された学校生活の推進	・交通マナー、法規の遵守について集会等で指導する。	・交通安全・モラル・マナーに関して生徒の意識が一層高まるよう、外部講師による講話などさまざまな場面で指導する。
L T 生徒会・部活動 ボランティア (生徒指導部)	・部活動の活性化	・活動環境の整備のため、予算を適切に使う。	・ガイドラインに則り、生徒にとって有意義な部活動になるよう、学校全体で連携を取り、各部活動の実態の把握、改善を促す。
	・生徒会活動の活性化	・学校行事やHR活動における生徒の活動を充実させるため、生徒会役員を定期的に招集し、学校生活検討委員会での議論を佳発にする	・学校行事において、生徒の主体的な参加を促し、各学校行事を生徒の手で成功させる。 ・HR役員の活動の場を増やす。
	・ボランティア活動の一層の推進	・ボランティア活動を掲示物等を利用して周知する。	・校内のボランティアのみでなく、校外のボランティアにも積極的に参加できるよう、学年を通じて呼びかける。
進学・就職指導 キャリア教育 (進路指導部)	・進路指導	・総合の時間を活用し、積極的な調べ学習を推進する。	・進路情報を自らの意志で積極的に手に入れ、自らの判断で進路を選択させる。また、将来の生き方を考えさせる。
	・就職指導	・進路指導講話で企業の方から基本的生活習慣の定着の大切さを教えてもらう。	・仕事の場面を具体的に想定し、礼儀作法を学ばせ、実践させる。さらに、社会人として必要である目上の人に対する接し方を学ばせ実践させる。
	・キャリア教育の推進	・インターンシップに対する意識の向上のため、事前指導を行う。	・企業に貢献する気概を高めさせ、就職希望者全員にインターンシップを経験させることにより、勤労観・職業観を高めさせる。
保健・体育 相談 清掃・緑化 (保健部)	・健康で安全な学校生活	・相談体制を充実させるためこころの健康観察を実施し、早期発見・対応につなげる。 ・特別支援教育の実践力をつけるため現職研修を行う。	・生徒の困り感を日頃からキャッチしやすくするため、月1回程度の頻度でこころの健康観察を実施する。 ・保健部、学年と連携しながらSSWにも相談し、生徒への支援方法を早急に実践できるよう図る。 ・教育相談担当者等の会議を活用して、早期の生徒情報の収集、及び教員間の情報共有に努める。 ・SC、SSWとの連携により適切な指導・支援を図る。 ・特別な教育支援を必要とする生徒への迅速な対応を図る。
	・豊かな情操を育む環境美化活動の推進	・校内の清掃活動の活発化のため適宜清掃道具の補充を行う。	・年間計画の中でポリッシャーを使用したワックス・清掃の日程を検討し、全教室の環境美化に努める。 ・美化委員会の活動を活発化させ、校内巡視等の活動を通して、校内美化に努める。 ・清掃用具の管理と補充を徹底する。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
福祉 ボランティア 資格取得指導 (福祉部)	・ 介護福祉士 国家試験対 策の充実	・ 教科指導を充実させるために、教科会で教材・指導方法・生徒の反応を共有し、改善する。 ・ 生徒の理解度・習熟度に応じた個別指導を行う。 ・ 12月から特別学習を実施する。	・ 「見やすさ」「わかりやすさ」を考えて板書・授業プリントを工夫する。 ・ 知識と実践を結びつけるために、どの福祉科目においても演習を取り入れる。 ・ 考査前の授業後に学習会を実施し、考査後は福祉科目6割未満の者への再テストを行うことで知識を定着させる。 ・ 国家試験の過去問題を使用して成績データを分析し、担当教員制による個別指導を実施する。 ・ teamsなどを活用し、学習相談、情報共有ができる環境作りを行う。
	・ 校外活動や福祉科行事の充実	・ 愛知県高校生介護技術コンテストの参加・運営 ・ ボランティア活動の推進 ・ 地域での「まごのて」実施	・ 各行事での生徒役割分担を明確にし、生徒が主体的に行動できる環境を整える。 ・ 各行事を通して、生徒の自己有用感を高める。 ・ 学年を越えた活動により、上級生がリーダーシップをとれるようにする。
学習・進路指導 生徒指導 (学年)	・ 基礎的人間力の醸成(1年)	・ 学校生活の規律 ・ 清掃の徹底と学習環境の整備 ・ 身だしなみと言葉遣いへの意識向上	・ 学校のさまざまな場面で繰り返し指導 ・ 安心して学業・部活動に参加できる環境作り ・ 生徒の積極的な活動を促進
	・ 学校生活の充実(2年)	・ 基本的生活習慣の確立 ・ 学校の諸行事への積極的参加 ・ 部活動への取組強化 ・ 進路意識の向上	・ 分掌・教科等の職員間や家庭との連絡を密にし、効果的な指導をする。 ・ 学校の中核という意識をもたせる。 ・ 部活動に意欲的に参加できるよう促す。 ・ 自己の進路実現を意識させ、情報を提供する。
	・ 目標に応じた進路の実現(3年)	・ 進路実現を目指した自己分析 ・ 自ら学ぶ能力の育成 ・ 授業や特別学習での学力充実	・ 生徒が自己分析をし、自分には何が必要なのかを主体的に調べ、考えられるように指導する。 ・ 自らの目標に応じて特別学習や家庭学習に取り組ませる。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組 (生徒指導部)	・ 安心・安全な生活できる学校づくり	・ いじめの未然防止、早期発見のためグーグルフォームで、こころの健康観察を毎月行う。	・ 情報モラルや人権の講話を実施して、啓発活動に努める。 ・ こころの健康観察結果を関係者で共有し、早期に対応する。 ・ 教職員が共通理解をもち、組織的に対応する。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止 (管理職)	・ 教職員が健康的に教育活動ができる学校づくり	・ 業務の適正化と年次休暇等の計画的な使用促進	・ 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、ストレスチェックの結果の活用や高ストレス者に対する医師の面接指導を通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。
その他 (管理職) (関係分掌) (各種委員会)	・ 地域から信頼され愛される学校づくり	・ 地域と積極的に連携し、生徒が活躍できる場を増やす。 ・ 部活動やボランティア活動を通して地域貢献できるよう環境を整える。	・ 生徒に対して、地域行事等に積極的に参加できる環境を整える。校内行事の立案には、できるだけ地域貢献の視点も含めるようにする。
	・ 信頼される教員の育成	・ 生徒の指導力や観察力の向上を目指し、厳しさの中にも愛情あふれる指導ができる教員の育成のため、現職研修を行う。 ・ 指導力向上のため、授業公開に積極的に取り組むよう働きかける。	・ 本校生徒に適した指導方法を、全教職員で共有するための情報交換会や、早期に生徒の変化に気づき、適切に対応できる指導力の向上を図るための研修を積極的に行う。 ・ 生徒とのコミュニケーションの図り方や、生徒理解に繋げるための研修を継続的に行っていく。 ・ 生徒に「わかった」、「できた」と達成感をもたせられる教員を育成するための研修を定期的に行う。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
その他 (管理職) (関係分掌) (各種委員会)	・危機管理体制の確立	・不祥事防止の意識の向上のため、教員相互の自浄作用機能を強化するとともに、研修を重ねる。	・常に教員としての自覚をもち、自己点検や相互点検に努める。 ・分掌会や学年会等での人間関係づくりを積極的に推進し、教員間の連携強化を図り、互いに指摘して支援しあえる環境を整える。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	・家庭や地域と積極的に連携し、地域に愛され貢献できる教育活動を展開することができたか。 ・自他を尊重する精神と豊かな情操を育み、自己の進路実現のための力を身に付けさせる教育活動が実施できたか。 ・学習環境を整えて、安心で安全な学校生活を提供できたか。		

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の 重点目標	① 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自他を尊重する精神と豊かな情操を養う。 ② 基礎学力の定着を図り、自己の進路実現のための力を身に付けさせる。 ③ 学校危機対応への取組と交通安全指導を推進する。 ④ 清掃を徹底し学習環境を整えるとともに、校内美化を推進する。 ⑤ 教員の働き方改革を推進する。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
行事・儀式 防災・校史 地域連携 体験入学 学校評価 (総務部)	・式典・行事の実施内容・日程等の検討 ・中学生体験入学の見直し	・式典や行事の実施内容、日程等を見直す。 ・状況に応じて、体育館での全体会や各教室での実施を検討する。	・天候に合わせて式典等の開催を教室に変更し、臨機応変に対応した。実施形態を変えながら、コロナ禍以前の形態で実施することができたため、今後も継続していきたい。 ・第1回中学生体験入学は、昨年度に引き続き、熱中症対策も兼ねて各教室で実施した。大きな事故は見られなかったため、今後も継続して実施していきたい。
	・広報活動の推進	・広報誌やホームページ、公式インスタグラムを有効に活用する。	・はまぎくを定期的に発行することができた。 ・行事ごとにホームページを更新するだけでなく、公式インスタグラムを開設し、外部に学校行事の様子を発信することができた。
	・PTA活動の再検討	・学校行事の日程変更に伴い、よりPTAの活動内容も見直しを進めていく。	・役員会の開催回数を減らし、負担軽減に努めた。今後も役員会の回数や各種行事等の日程、内容を検討し、保護者の負担を軽減していきたい。
学習指導 現職研修 図書指導 (教務部)	・基礎学力の定着と社会の中で生きる力の習得	・基礎学力の定着 ・総合的な探究の時間等を利用した探究的活動とキャリア教育の充実	・今年度は、基礎学力の定着を図る一助として「ユニバーサルデザインの授業の実践」に関する研修などを行うとともに、公開授業などでの実践及び協議を進めた。更なる実践の蓄積を進めていきたい。 ・「タカコウタイム企画委員会」にて、「探究」の方法や目標に対してどのような取組が必要かなどについて細かく協議を重ねた。特に教員がファシリテーターとしてどのように生徒の探究に寄り添い、補助するのかについて考える機会を設けた。研修などを通じて、全体に探究的な活動についてより知ってもらふ機会を多くしたり、協働したりして、より探究が深まるように進めていきたい。
	・カリキュラムマネジメントの実践と評価方法の充実	・生徒の評価や振り返りを活用した授業の改善を図るシステムの構築	・観点別評価を行うことが、生徒の現状を知ることや自身の授業改善に繋がるということの周知が完全ではなかった。次年度は生徒も教員も振り返りを実施することでメリットがあることを明示して進めていきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 現職研修 図書指導 (教務部)	・カリキュラムマネジメントの実践と評価方法の充実	・評価方法などの情報を共有し、改善を図る	・周知は進めているが、評価方法の精選などはまだできる余地がある。過度な負担にならないようにしつつ、生徒と教員の両者にメリットのある形を次年度も模索していきたい。
	・図書館利用生徒数の増加	・図書館活動の活性化 ・読書活動の充実	・生徒の読書数については昨年度より落ち着いたが、これはむしろ昨年度が突出していたと捉えている。貸し出ししている生徒の固定化もある。より広く読書する生徒を増やす方策を次年度から考えたい。 ・朝の読書の時間は学年からの需要も高く、生徒の落ち着いた学校生活の一助として次年度以降も継続していきたい。
生徒指導 交通安全 (生徒指導部)	・基本的生活習慣の確立	・身だしなみ指導の徹底。欠席、遅刻者数の減少と、挨拶指導の充実	・身だしなみ指導は、ブレザーの前ボタンを留めることとスカート丈の長さを徹底することで昨年度よりさらなる改善ができた。次年度は、これらを徹底して継続・維持していきたい。 ・遅刻指導に関しては、様々な家庭環境を起因とする生徒も見受けられるため、個に適した声掛けや指導を実施し続けたい。 ・挨拶指導を通じて、挨拶ができる生徒がほとんどである。次年度も継続的に取り組んでいきたい。
	・安全、安心が確保された学校生活の推進	・交通マナー、法規の遵守指導の徹底	・自転車事故は数件あったが大事には至らなかった。 ・道交法の改正に関して、生徒へ周知することができた。
L T 生徒会・部活動 ボランティア (生徒指導部)	・部活動の活性化	・活動環境の整備	・部員数も増え、活発に活動する部活動が増加した。にがりを多めに散布することができたため活動環境も格段に向上した。
	・生徒会活動の活性化	・学校行事やHR活動における生徒の活動の充実	・生徒会執行部が中心となり、学校行事を通じてHR活動に大きな影響を及ぼすことができた。次年度は、更に活動を活発にしていきたい。
	・ボランティア活動の一層の推進	・ボランティア活動の周知	・通学路清掃ボランティアでは、全校生徒の半数を超える参加があった。来年度以降は清掃コースの分散等を視野に入れていきたい。また、集団の一員として奉仕をすることの体験を通して、ボランティア精神を涵養していきたい。
進学・就職指導 キャリア教育 (進路指導部)	・進路指導	・積極的な調べ学習の推進	・タカコウタイムや個人面談を通じて、進路情報を自らの意で積極的に調べさせることができた。 ・オープンキャンパスや企業見学を経験させることによって、多角的な判断をさせることができた。
	・就職指導	・基本的生活習慣の定着	・授業の開始の挨拶では、正しい行動をとらせることができた。1年間やり通すことによって、社会人として必要であるコミュニケーション方法を自ら考えさせ、目上の大人に対する接し方や言葉遣いを学ばせることができた。
	・キャリア教育の推進	・インターンシップに対する意識の向上	・第1学年では、普通科就職希望者には企業説明会を、進学希望者には進路説明会を企画することができ、自らの進路に対する意識を高めることができた。 ・第2学年では、就職希望者全員にインターンシップを経験させることができた。 ・第2学年において、3日にわたり企業説明会を企画し、勤労観・職業観を高めさせた。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健・体育 相談 清掃・緑化 (保健部)	・健康で安全な学校生活	・相談体制の充実 ・特別支援教育の実践	・教育相談では、スクールカウンセラーからのアドバイスや医療機関との連携を図り、適切なアセスメントのもとで、効果的な生徒の指導・支援にあたることができた。 ・通級による指導では、各担当者が個別の指導計画を作成し、個々に合った自立活動を展開することができた。今後は、通級による指導の受講生徒の進路実現を目標とし、進路指導部と協力しながら特別支援教育の充実を図っていきたい。
	・豊かな情操を育む環境美化活動の推進	・校内の清掃活動の活発化	・通常清掃において、清掃箇所を増やし、学校全体の美化に努めた。 ・用務員・園芸部の協力を受け、正門周辺、中庭の花壇の花を多く咲かせることができた。
福祉 ボランティア 資格取得指導 (福祉部)	・介護福祉士国家試験対策の充実	・教科指導の充実 ・特別学習の実施	・1、2年生は国家試験合格を目指した学習ノートの取組を継続的に行った。3年生は個々の学習状況に応じて面談、学習会等を実施した。 ・知識の定着を図るために、朝の小テスト、国家試験前の特別学習の実施を次年度以降も継続する。
	・校外に向けた活動の充実	・愛知県高校生介護技術コンテストの運営 ・ボランティア活動の推進 ・地域での「まごのて」の実施	・介護技術コンテストの運営を3年生徒が中心になり、滞りなく開催することができた。 ・ボランティアの応募に消極的であり、人が集まらなことが幾度かあった。募集方法や告知方法を再考する必要がある。 ・2施設でまごのてを実施した。来年度は、訪問回数、施設を増やして活動の機会を複数回にしたい。
学習・進路指導 生徒指導 (学年)	・基礎的人間力の醸成 (1年)	・学校生活の規律 ・清掃の徹底と学習環境の整備 ・身だしなみと言葉遣いへの意識向上	・時間を守ったり、前向きに授業に取り組んだりメリハリのある生活を送ることができた。 ・少しずつ挨拶が消極的になっているため、次年度の課題としたい。
	・学校生活の充実 (2年)	・基本的生活習慣の確立 ・学校の諸行事への積極的参加 ・部活動への取組強化 ・進路意識の向上	・クラスでの指導を中心とした細かな指導を継続し、各種の段階的指導も行ったことで、多くの生徒が基本的生活や勉学において適切な習慣を確立した。 ・たかこう祭をはじめとする様々な行事が縮小前の規模に戻り、生徒達も積極的に取り組むことができた。 ・個人面談等や進学説明会・企業説明会を設定し、進路実現への意識を向上させることができた。
	・目標に応じた進路の実現 (3年)	・進路実現を目指す中で、自己分析をし、将来に何が必要かを考えて自ら学ぶ能力の育成 ・特別学習での学力充実	・「タカコウタイム」の内容を精選し、進路説明会等の企画を実施するなど、生徒が自主的に進路選択できるよう情報提供を充実した。生徒が、主体的に自己分析や自己理解をしていく上で、あらゆる学びを通し職業観や勤労観を培い、自分の将来像を描けるように指導することができた。 ・Ⅱ類においては、生徒に合わせた特別学習を実施することにより、学力を向上させ、進路実現できるようにサポートすることができた。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学校いじめ防止基本方針に基づく取組（生徒指導部）	・安心・安全な生活で きる学校づくり	・いじめの未然防止 ・いじめの早期発見 ・いじめに対する適切な対応	・面接を実施し、いじめの早期発見と抑止に努めた。いじめの認知も積極的に行った。 ・生徒向けのアンケート調査は安心して回答できるようにweb 回答で実施した。 ・生徒からの情報を共有し、学校全体として組織的に対応することができた。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止（管理職）	・教職員が健康的に教育活動ができる学校づくり	・業務の適正化と年次休暇の計画的な使用促進	・毎月報告される「在校時間等の状況記録」の結果の活用や考査中の定時退校日の設定など、勤務の適正化を図るように職員に声掛けするよう努めた結果、長時間勤務者の数が全体として減少した。 ・昨年度より、一部の教員を除いて長時間労働は減少し、休暇の取得も促進されたが、今後さらにワークライフバランスを意識するよう、全職員に働きかけたい。
その他 （管理職） （関係分掌） （各種委員会）	・地域から信頼され愛される学校づくり	・地域から愛される学校づくり ・地域との積極的な連携強化を目指した教育活動の推進 ・部活動やボランティア活動を通じた地域貢献	・生徒は部活動やボランティア活動等を通して、地域行事等に積極的に参加することができた。 ・介護実習やインターンシップ等で地域の力を借りながら、本校の教育活動を充実させることができた。
	・信頼される教員の育成	・生徒の指導や観察力の向上を目指した体制の構築と整備 ・厳しさの中にも愛情あふれる指導のできる教員の育成 ・指導力向上に資する取組の継続的实施	・教員間のコミュニケーションを重視した。日々の業務の中でO J Tを推進し、教員としての能力向上を図った。 ・生徒とのコミュニケーションを重視し、生徒理解をより深められるよう今後も働きかけていきたい。 ・生徒が達成感をもつことができる授業の実践を目標に、日頃から研修を大切にするよう働きかけたい。
	・危機管理体制の確立	・不祥事防止のための意識の向上と、教員相互の自浄作用機能の強化	・不祥事防止に関する研修等を通して、教職員は常に教育公務員としての自覚をもち、自己点検や相互点検に努めた。今後もさらに意識の向上を図っていきたい。 ・教員間のコミュニケーションを重視し、教員どうしの連携を図り、互いに支援しあえる環境を整えていきたい。
総 合 評 価		・家庭や地域と積極的に連携し、地域に愛され貢献できる教育活動を展開することができたか。 ・自他を尊重する精神と豊かな情操を育み、自己の進路実現のための力を身に付けさせる教育活動が実施できたか。 ・学習環境を整えて、安心で安全な学校生活を提供できたか。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・家庭や地域との連携を密にし、地域に愛され貢献できる教育活動を展開することができたか。 ・自他を尊重する精神と豊かな情操を育み、自己の進路実現のための力を身に付けさせる教育活動が実施できたか。 ・学習環境を整え、安心、安全な学校生活を提供できたか。
自己評価結果について	・年間行事通りに諸活動を行うことができた。特に、地域活動部S B P班の活動や各種ボランティア活動への参加・貢献などにより、学校と地域が協同・連携して諸行事に

	取り組むことができ、本校の良さを校内外にPRできた。 ・普通科については、計画通りインターンシップを行った。大企業から地元企業まで、さまざまな場所で就業体験活動を行い、自己の職業観を確立しようとした。 ・福祉科については、地域の福祉関係施設での介護実習等を計画通り行った。交流活動等の諸活動や情報発信を通じて、本校の福祉教育の質の高さを地域に向けて発信することができ、さらに高浜高校福祉科の魅力を地域にアピールすることができた。
今後の改善方策について	・校内及び地域において挨拶を積極的に行う習慣を身に付けたり、公共の場所等でのマナーや交通ルールを守ったりすること等を積極的に働きかけることで生徒の規範意識を高め、社会の一員であることを認識させる教育活動を学校全体で取り組みたい。 ・ホームページ等の情報媒体や中学校訪問等により、中学校、保護者や地域への情報発信を強化し、地域から信頼され愛される学校を目指す。特に、福祉科についての情報発信を今後も積極的に行っていきたい。 ・今後も校内外の様々な活動への参加を通して、生徒の達成感や充実感、自己肯定感を高める指導を地道に行っていきたい。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	Q1 最近の本校に関することで、印象的なこと ・「広報たかほま」での手話部の手話説明はよいと思う。 ・ボランティア活動や地域貢献活動の充実。 ・通級があること。 ・校内の行事が充実している。 ・体育大会での学年、クラスごとの個性あふれる集団行動や表現に感動した。 ・体育で使うトイレが汚れているところが気になりました。 ・子どもたちが楽しそうに、のびのびしている印象です。 ・通学路清掃は良い取組だと思います。 ・卒業式での生徒の清々しい姿から、高校生活が充実していたことがよく伝わってきました。 ・SBP 班の活動には、とても感心しています。今後も楽しみにしています。 ・福祉科の体験発表では、これまで以上に生徒の自主性がうかがえました。 ・部活を通して環境整備を定期的に行っている。 ・部活動を終えて正門付近に集まる生徒のマナーが気になりました。 Q2 今後更に「地域から信頼される学校」「開かれた学校」となるために、本校が留意すべき点 ・公共の場では特に節度のある行動を意識してほしい。 ・様々な活動の場を近隣の市へ広げると良いのかもしれません。 ・下校時の正門付近のマナーを指導していただけるとよいと思います。 ・SBP 班や手話部など、学校内外の活動を地域の広報で広く紹介するとよいです。 ・消防のヘリコプター離着陸訓練など、グラウンドを地域のために活用する。 ・SBP 班の「タツヲ焼き」を市内で売り出す。 ・学校行事を積極的に地域へ開く。 ・地域の活動に多くの生徒が参加できると良いと思います。現在でもマラソン大会のボランティアやSBP 班等が活躍しており、今後もがんばってほしい。 Q3 本校の教育活動全般についての御意見 ・不登校の生徒への支援も願いたい。 ・頭髮検査は長さよりも清潔感を重視した方がよい。 ・勉強が苦手な生徒に対して個別指導する時間を作っていただけると良いかと思います。 ・福祉科の資格取得率は魅力的だと思う。 ・友達や先生に恵まれて楽しそうに通っているのが安心しています。親として、とても感謝しています。 ・とても良い生徒さん達だと思いますが、地域との接点がある時にはもっと積極的になれるとより良いです。生徒さんの協力は市もうれしく思っています。今後もよろしくお願いします。 ・先生と生徒の関わりが、とても良いと思いました。大人の話にきちんと耳を傾ける生徒が多く、日頃の生徒指導の賜だと思いました。 ・Instagramにアップされることで、学校でどのようなことが行われているかが分かり、子どもとのコミュニケーションツールとなるのでありがたいです。

	・駅及び駅周辺の生徒のマナーが気になります。 ・基本的な生活習慣の指導をされていると感じます。 ・福祉科の卒業生について、就職先で即戦力になっていると話を聞いている。とても誇らしく思う。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成…学校評議員4名（PTA会長を含む）、地域後援会役員、PTA役員等 ・評価時期…3月初旬

(5) 経営管理上の問題点等

ア 河川水位上昇時のグラウンド排水困難

イ 下水道接続